東西ドイツ統一 25 年、そして、今・・・

今年 2014 年は、東西ドイツが統一され、25 年になる。無血のドイツ再統一への政治・外交の舞台裏交渉、Helmut Kohl（ヘルムート・コール）元首相、Erich Honecker（エーリッヒ・ホネッカー）党首等の当時の動向、真相を伝えるドキュメンタリー･フィルムが、次々に報道されている。

10 月 3 日の統一記念日には、現職のニーダーザクセン Stephan Weil（シュテファン・ヴァイル）州首相が、スピーチの中で、「当時は、東側に逃げる人が多く･･･」とうっかり発言。即、式典出席者たちが、「逆でしょう」と反応し、「そうですね。皆さん、私たちは、無意識にもう東も西も気にすることないほど、融合しているのです。」と会場に笑いを運んだ。この笑いが、ユーモアなのか、まだまだ東西の差が政治経済社会問題の原因となっている現状へのアイロニーなのか・・・。少なくとも政界からの出席者たちは、内心穏やかではなかったようである。28 年間のベルリンの壁の存在は、今もって、ドイツ人の日常生活、精神に様々な影響をあたえている。いや、見方によっては、東西ドイツの差が、意外な方向に展開している部分さえある。

1989 年、人権・自由の束縛をしつづけ、国家財政破綻を起こしていたドイツ民主共和国、東ドイツ（DDR）に、ついに国民が耐え切れず、ハンガリー等東欧圏を通って、西側に流出。DDR 幹部が、“Ich liebe Euch doch alle!"「国民よ、愛している！（秘密警察などで自由を縛ってはいるが、どうか、この国を捨てないでくれ）！」と叫んでも、もう、こんな国家は、たくさんだと、国民たちが、そっぽをむいたのである。そして、それは、20 世紀のゲルマン人の大移動といえる、大きな衝撃の波となり、ベルリンの壁を突き破ったのであった。

DDR の人口の推移

確かに、戦争をせずにベルリンの壁（13. August 1961 から 9. November 1989 まで、28 年間存在）が壊され、東西ドイツが、再び統一されたといえるが、実際には、西側への逃亡に失敗し銃殺された 600 名以上の犠牲者、体制からの精神的抑圧に耐え切れずに自らの命を立った人々、強制養子組みで家族の絆を切られた人々と、多くの悲劇がおこった。統一後 25 年たった今も、その傷のうずきに苦しんでいる人々がたくさんいる。

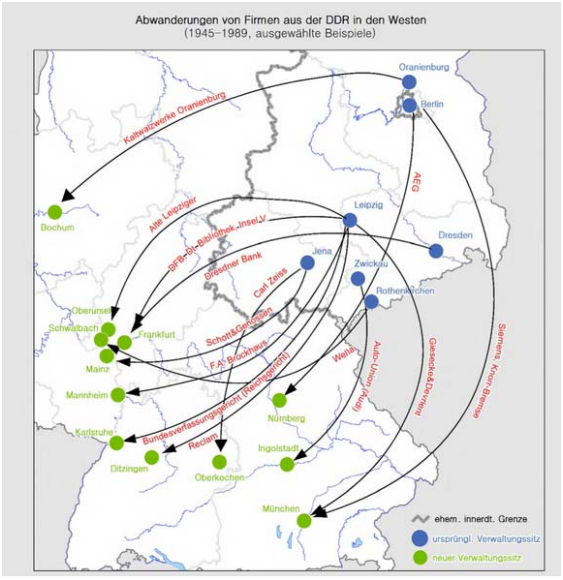
分裂状況下、西独にくると東独の人々は、だれもが、当時 150DM/1 人（約 15000 円相当）の「ようこそ、いらっしゃった。東の兄弟たちよ。」と、Begrüßunsgeld（英訳すると Welcome Money）という補助金を受けることができた。1989 年 8 月から、9 月にかけ、事実上、DDR 崩壊の無政府状態の中、西独側の高速道路上は、排気ガスをポンポン吐き出す東独製の Trabant、 Trabi で渋滞。

左図：国外への旅行申請は、1989 年の 7 月末から、10 月までの短期間に 125.400 人から、188.180 人まで 62,780 人も急激に増化。1989 年の東独からの亡命者は総計 53.576 人。

「東独の今後の運命はどうなるかわからない。今のうちに西側にとっては少額かもしれないが Begrüßungsgeld をこのときぞ！」と、受け取りに来る東独の人々たちは、行列をつくり、西側の行政拠点や銀行では、一時的に DM 不足にさえなった。

基本的人権・自由を抑圧する東独体制下、人々は、3 つの生き方を迫られた。おとなしく体制に従い政府の党員になり、STASI 国家秘密警察の手先になるか、反政府分子として命を懸けて DDR 内で戦うか、西側に逃れるか。そこには、数多くのドラマが展開した。

東欧圏をとおりぬけ、黒海を小さなボートでこぎぬけてトルコ経由西独に亡命した物理学者。幼い子供 5 人に、ぬいぐるみはひとり 1 つだけ、と言い聞かせ、いつ検問を受け強制送還されるかわからない夜道をひたすら車で走り、西側にたどり着いた音楽家の一家。西側にたどり着いたはいいが、すぐには、定収入が得られず、苦労しながら業績を上げていった人たちが、たくさんいる。



©BMWi/Atlas der Atlas der Industrialisierung

1945-1989 年に西側に移動した主要企業、東西分裂期間の格差をいかに調整するかが、統一後のドイツの大きな課題となった。

そして、1989 年から東西ドイツの統一に伴う種々行政財務改革が開始された。一番の課題となったのは、東西ドイツの通貨交換レート。当時の Kohl 内閣は、比較的速やかに、Deutsch Mark(DM):DDR Mark=1:2（下表）に設定。

Konversionsraten auf der Basis einer nicht-inflationären D-Mark-Ausstattung der DDR (in Mrd. auf der Basis 1989)

	Aktuelle Werte 1989		Nicht-inflationärer Geldbestand der DDR		Konversionsraten	
	DDR-Mark	D-Mark	in D-Mark A[1]	in D-Mark B[2]	Mark zu D-Mark A	Mark zu D-Mark B
Zentralbankgeld	17,5	146,9	19,5	14,7	0,9:1	1,2:1
M1[3]	146,6	450,6	59,9	45,1	2,4:1	3,3:1
L[4]	252,0	2.738,3	364,2	273,8	0,7:1	2,0:1

[1] Annahme: PP der DDR = 13,3 % des PP der BRD
[2] Annahme: PP der DDR = 10 % des PP der BRD
[3] Zentralbankgeld plus Sichtguthaben von inländischen Nichtbanken bei Kreditinstituten
[4] Sicht-, Termin-, Sparguthaben, langfristige Bankanlagen und andere Anlagen von Nichtbanken bei Kreditinstituten

Quellen: Deutsche Bundesbank, Monatsberichte; Jahresbericht der Staatsbank der DDR für 1989.

Lesart der Tabelle (Beispiel Zeile M1): Variante A: 13,3 % von 450,6 = 59,9; 59,9 wäre die inflationsfreie Ausstattung; das vorhandene Geldvolumen ist aber 146,6; folglich wäre eine Rate von 2,4 Mark : 1 D-Mark zu wählen.

さらに、首都をボンからベルリンに移す象徴的なアクションに始まり、旧西側から、元 DDR の各州に復興助成金としての連帯税徴収（2019 年まで継続）、西側にあわせた年金支払い処理・・・。莫大な金額が、元西独、ドイツ連邦共和国の財務負担となったのである。ちなみに、旧西側の一人当たりからの平均税収は、1,837Euro(249,355 円)/月）、東側は、937Euro(127,189 円)/月といかに、西側の負担が大きいかわかる。

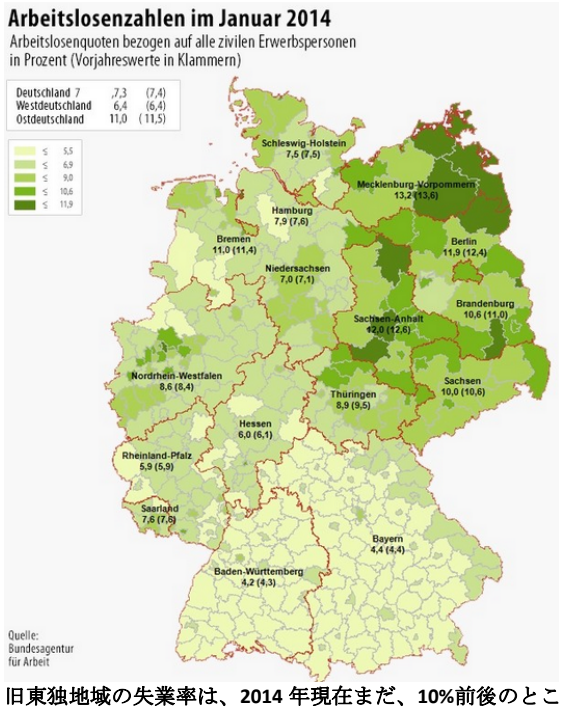
2014 年現在、ドイツ大衆紙"Bild"-Zeitung によると、ザクセン州を中心に、エネルギー産業、有機エレクトロニクス分野で技術革新の核になる公の研究機関、ベンチャー企業、また、ドイツの原動力となっている自動車産業を優先誘致してはいるが、東と西の格差は、依然大きい。元東ドイツの経済力は、まだ、西側の 30%と、概略的に生産拠点数等から判断する見方もある。

DPA

Arbeiter in Porsche-Werk in Leipzig: Industriestarke Wachstumskerne im Osten

ライプチッヒのポルシェのアセンブリープラント

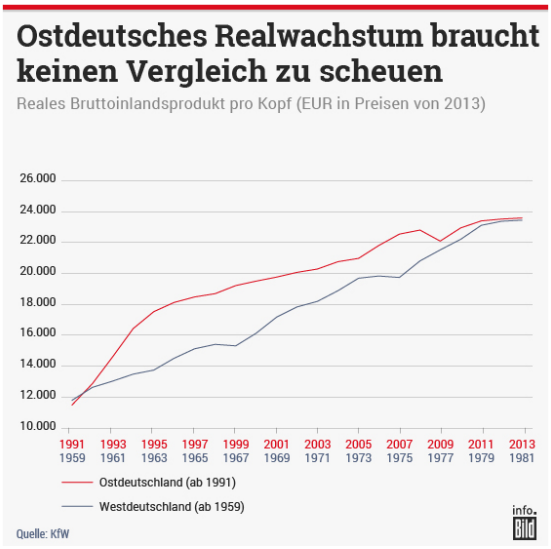
Chemnitz（東独下の Karl-Marx Stadt）にある Karl Marx の像。Vladimir Ilyich Ulyanov 別名 Lenin の像とは違い、統一後も取り除かれることもなく、街の中心にある。DDR 下、プロレタリアート中心の街であったため、現在も殺伐としているが、Chemnitz University では、有機エレクトロニクスの最先端の研究が展開。（筆者撮影）



旧東独地域の失業率は、2014 年現在まだ、10%前後のところが多い

独創的技術革新が非常にむずかしい社会主義、共産主義下に長いこと生活していた人々の統一後への働くことへのモティベーションは、両極化。西側の自由を深呼吸し、意欲的に新規スタートする人々と、「計画経済」の言葉に慣れ親しみ、今さら一生懸命働く気はないという人々。その違いは、顕著である。勤務態度で、旧東独から来たかどうかは、すぐにわかってしまうという人事専門家のコメントもある。ちなみに、旧 DDR 地域での、失業率は、現在平均すると 10%前後。

とは、いうものの、第二次世界大戦直後の経済レベルを長く引きずっていた旧 DDR も、統一後 25 年たった現在、実質国民生産を詳しく分析すると、（下図参照）着実に西側と融合してきている。



Die Kreditanstalt für Wiederaufbau (KfW)のリサーチによると東西ドイツの一人当たりの実質粗国民生産は、統一後 25 年たった現在融合しつつある。Red Line が東独。統一直後、1991 年は、西独の 1959 年当時の経済水準。

東西ドイツ統一後の経済分析研究所 Kreditanstalt für Wiederaufbau (KfW)によると、旧 DDR は：

▶ドイツの輸出部門、自動車産業への旧 DDR の貢献は、まだそれほど大きくない。

▶東側には、大企業の進出は見られず、主に従業員 500 名程度の中小企業が進出。

▶技術革新投資は顕著でなく、2010 年－2012 年の集計データでは、新技術新製品部門の占める割合は、東側中堅企業の 24%にとどまっている。

▶西側に比べ比較的低い収入の原因は、専門職業学校以外の、大学等の高等教育普及率が遅れている。（大学進学率、東側: 24,5% / 西側: 29,2 %）

しかし、これとは対照的に

►道路等インフラ復興負債が、相殺され始め、ドレスデン(Dresden)、ライプツィッヒ(Leipzig)、ハレ (Halle) 等の街並みが改修復興。ただし、郊外は、未だに復興されていない。

►失業率が、東のほうが高いが、それでも、1991 年と比較し、東側は、9,1 -10％へと回復。旧西ドイツ側は、失業率が 5,8%まで上昇。

►旧東独主要都市地域での IT・インターネットの普及が、非常に早い。（郊外は、普及遅れ気味）

►東側の堅実な就職に結びつく職業学校の教育水準の急速なレベルアップ。専門職業資格を習得できる教育機関への就学率は、現在東側が 81,6% 。これに対し西側は、75%。

►3 歳児以下の乳幼児託児所の普及率は、元 DDR 地域が、2013 年現在 49,8%。対照的に西側は、約半分の 24,2%。この影響で東側のほうが、出生率が高くなっている。

►女性の就業率が、東側、75,8% 。西側は、約 5%低い 70,6%。

►従業員 250 名の中小企業数が、東側では、2003 年 458 社から、 2013 年、578 社まで増加。

と、変遷してきている。

東西ドイツ統一の、ドイツ国民にとっての意義につき、語ればきりがないが、ドイツ国内のアンケートをとっている infratest dimap によると、東側の 75%、西側の 48%が、統一してよかったとの見解。そして、西側の 25%、東側は、15%が、大きな経済負担となっているという意見。しかし、29 歳以下の旧 DDR の若い世代は、統一は、非常にポジティヴと捉えており、特に彼らの 96%は、移動の自由、個人の自由と権利を高く評価。これに対し西側の同世代の 66%が、同意見をシェアーしている。

さらに興味深いのは、教育システムは DDR のほうがよかったという旧 DDR の答えが、78%と 1995 年のアンケートより 2%増加。男女均等、社会健康福祉制度については、DDR のほうが優れた部分がるという意見も見逃せない。旧 DDR で、現在のドイツの連邦システムは頼りがいがあると回答したのは、57%。15%は、DDR のほうが、安定していたとの意見。

9 月中旬に放映されたドイツ中部放送の番組、"Exakt! - So leben wir（今、こうして私たちは、生活している）!" の中で、ドイツ連邦内の 14 歳以上 1000 名にアンケートをとった結果、東側には、明るい話題が多い。ここ 5 年、エルツ山地およびバルト海沿いの失業率は急速に減少、ブランブルグの Ostprignitz-Ruppin（オストプリグニッツ-ルッピン）、チューリンゲン州の Kyffhäuser und Kreis（キュッフホイザー及びその近郊）では、求人数が上回る状況さえ出てきている。逆に、西側の Saarland（ザールランド）の Neunkirchen in Herne（ノイキルヒェ・イン・ヘルネ）、ノルドラインランド・ヴェストファレン州全体、バーデン・ヴュルテムブルグ州の Heidenheim（ハイデンハイム）等、旧西側の失業率は増加している。また、首都ベルリンには、2008 年-2012 年に、約 130 000 人が流入。 一方、西側の石炭・鉄鋼中心だったザールランド、ルール地方の経済が振るわなくなってきている。先にふれた連帯税は、西から東へ適応されているが、西側促進助成に適応されておらず、対象地域の見直しが迫られている。

ドイツ連邦の Sigmar Gabriel（ジグマー・ガブリエル）(SPD)は、「お金は、天から降ってくるのではない。社会構造、経済状態を十分考慮して、助成促進しなくてはいけないところに適宜アロケートしなければならない」と政策見直しに言及。これからの、展開が注目される。

第二次世界大戦の痛ましい置き土産、ベルリンの壁を 1989 年に文字どおり砕き、統一を成し遂げたドイツ国民は、25 年たった今、岐路に立っているといえる。

東西ドイツ統一を喜ぶ 25 年前のドイツ国民
http://www.planetwissen.de/politik_geschichte/ddr/die_berliner_mauer/img/intro_diemauer_feier_g.jpg より引用

屋根瓦職人から DDR 党首にまでなりあがった Erich Honecker（エーリッヒ・ホーネッカー25. August 1912 – 29. Mai 1994 in Santiago de Chile)の未亡人で、DDR 国民教育大臣であった Margot Honecker（マーゴット・ホネッカー）は、チリに移住。ドイツ連邦から、月約 1000Euro の年金を受け、現在も健在である。

上：DDR 時代の Honeccker 夫妻
下：チリ在住の Margot Honecker
北ドイツ放送 NDR、インタビューから引用

最近の TV インタビューで、「社会主義・共産主義に従わない家庭の子供たちを当時家族から強制的に隔離し養子縁組を促進したことは、けっして間違いではなかった。今の Merkel（メルケル）首相のだらしない政治は、とてもじゃないけど見ていられない。1989 年、確かに経済状態は悪かったが、当時よくなる兆しがあり、DDR は、理想国家だった。」と、コカコーラを手に語る彼女。当時の DDR 幹部は、夫 Erich Honecker をふくめ、その政治的責任を問われ、裁判にかけられたが、彼女だけは、なぜか、このプロセスを逃れている。

時は流れ、歴史は刻々と編まれてゆく。東西ドイツ統一から 25 年。石油、水をはじめとする資源枯渇危機、エボラ・ウイルス感染拡大、都市のスラム化、金融危機、テロ、難民、Cyber Criminal、身動きの取れない EU およびユーロ通貨危機など、無数のグローバル化した経済社会問題が展開するなどと、当時、思ったであろうか？ノスタルジックに Margot Honecker の活躍した時代のようにイデオロギーだけで理解・解決できない現在の地球上の問題の複雑さを痛感する。

（小澤エネルギー研究所
26.10.2014 Setsuko Schwarzer）

（参考引用資料）
http://www.kas.de/upload/bilder/LSM/67.jpg
http://www.spiegel.de/wirtschaft/soziales/bericht-zur-einheit-wirtschaft-in-ostdeutschland-abgeschlagen-a-993404.html
http://www.zeit.de/wirtschaft/2014-06/ostdeutschland-industrie-ostbeauftragte
http://www.bild.de/geld/wirtschaft/mauerfall/der-grosse-ost-west-vergleich-37961286.bild.html
http://de.wikipedia.org/wiki/Deutsche_Demokratische_Republik#mediaviewer/File:Bev_DDR.png
http://www.planet-wissen.de/politik_geschichte/ddr/die_berliner_mauer/img/intro_diemauer_feier_g.jpg
http://www.google.de/imgres?imgurl=http%3A%2F%2Fstatic03.klatschtratsch.com%2F615xq100%2F2012%2F04%2F12_Der_Sturz.jpg&imgrefurl=http%3A%2F%2Fwww.klatsch-tratsch.de%2F2012%2F04%2F11%2Fmargott-nochmal-zoff-um-honecker-interview-geht-in-neue-runde%2F111177&h=492&w=615&tbnid=uapTohVerVhTDM%3A&zoom=1&docid=Ya8gnMVvjQwIUM&ei=tRhNVLHzBITTaIS3goAH&tbm=isch&iact=rc&uact=3&dur=1123&page=8&start=92&ndsp=15&ved=0CNECEK0DMGM